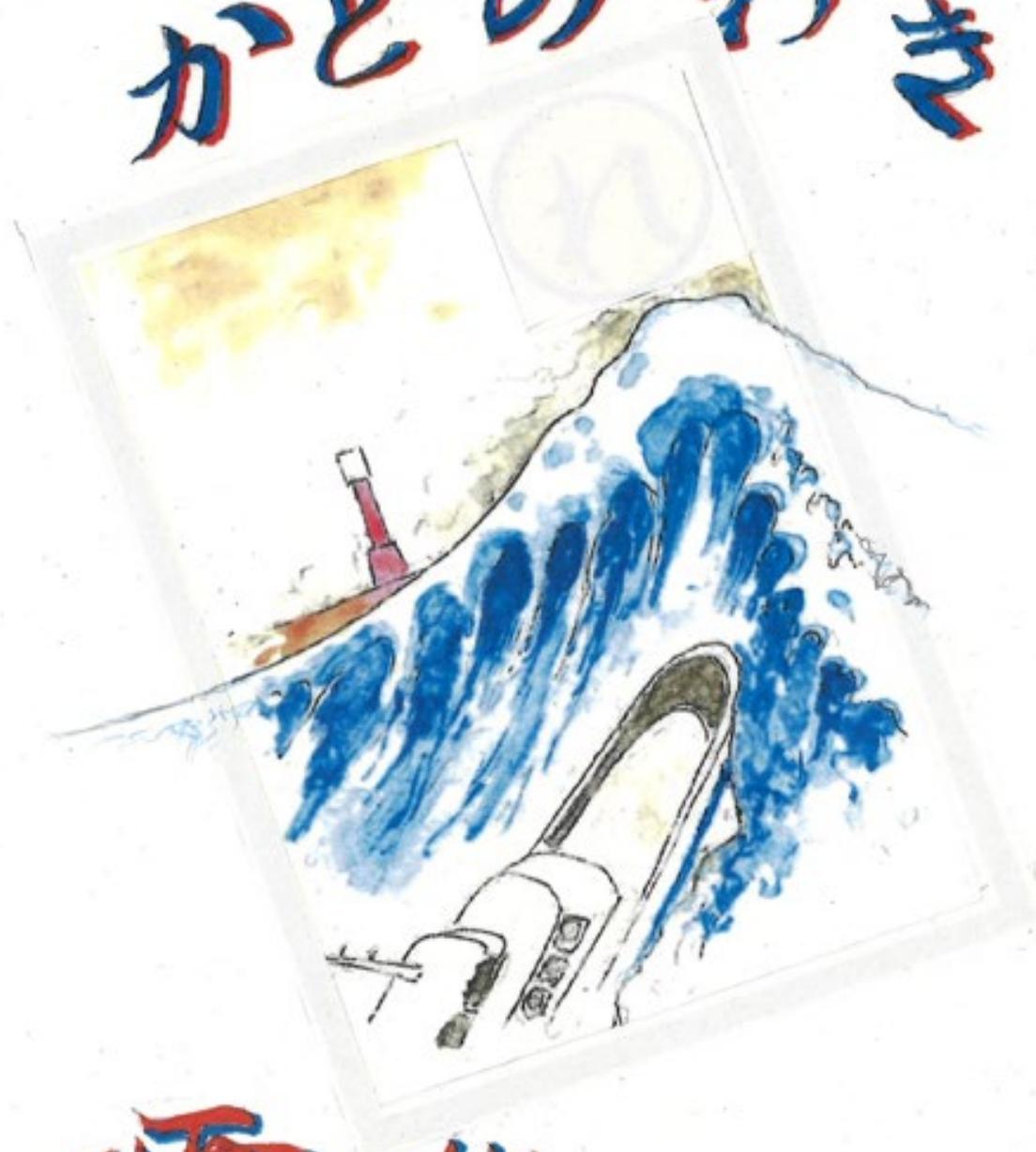


かどのわき



震災 カルタ

① 命の水は いどっこ清水

日南山南面中腹から出る湧き水で、江戸期の絵図には柳清水とあり柳の木がありました。何時の頃からか、いどっこ清水と呼ばれ約50センチ四方の井戸状の石枠に清水が溜まっていました。日如山三名水の一つで眼病に効くと云われます。震災時は付近の住民の命の水となり、水がしたたり落ちるところに雨樋を差し込み、バケツに溜めて運んだのです。その後、ホースを繋いで下まで引き、風呂桶に溜めました。道路が開通した3月末には給水車が来るようになりました。

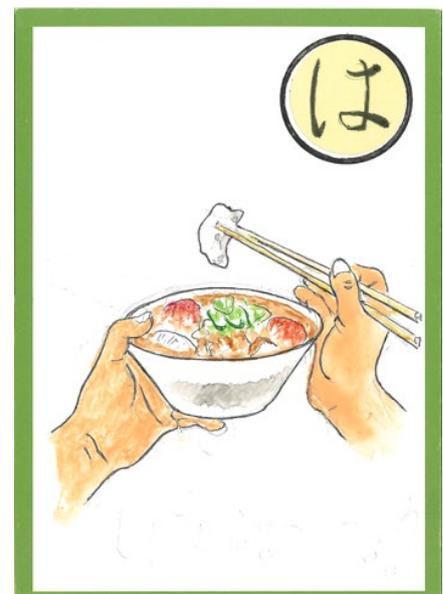


② ろうそく暮らしだったね 津波後の暮らし

震災で門脇地区は電柱が倒れ、しばらくは電気のない暮らしでした。この地区で電気が復旧したのは70日後の5月21日でした。その日の夕方に山裾に残っていた電柱に街灯がついたときは、住民の皆さんが集まって感嘆の声が上がりました。門小通りはすべての電柱が倒れたので、電柱の建て方から始まりました。私は震災から1か月ほどしてから発電機が調達できたのでテレビを見ることができました。その時に初めて津波の映像を見ることができたのです。

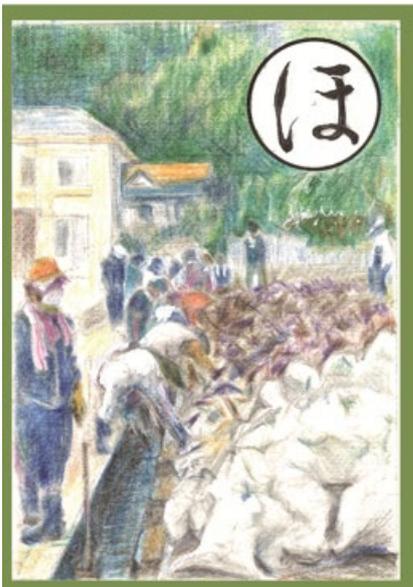
③ はット汁 皆にふるまう 3. 11慰霊祭

門脇コミュニティでは、翌年より毎年3. 11慰霊祭を行ってきました。2012年3月11日の1周年慰霊祭は、日如山の大鳥居の前で行い、たくさんのキャンドルにメッセージを書いて頂きました。ローソク作家の横島憲夫様が「3. 11の灯り」を提唱し、宮城県、岩手県、福島県の各地で「灯り」を灯しました。ハット汁は2013年の慰霊祭よりふるまうようになりました。ハット汁は皆様から好評を頂いています。



⑨ 二度あることは三度ある 津波用心怠るな

三陸地方の大津波は過去に何度もありました。近年では昭和35年5月24日のチリ地震津波で142名の方々が犠牲者になりました。昭和8年3月3日は昭和三陸津波で1,522名が亡くなりました。明治29年6月25日には明治三陸津波で21,915名が亡くなっています。3.11の災害は千年に一度といった方がいました。過去を振り返ってみれば、約30年に一度の割合で災害が起こっています。最近では千島海溝の歪みが大きくなって近々起こる可能性もあります。

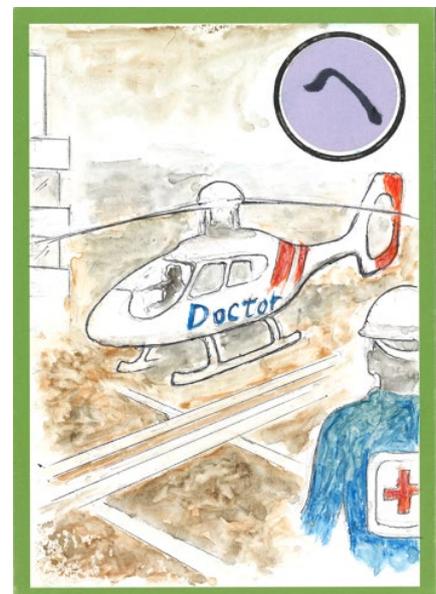


⑩ ボランティア 泥かき 片付けありがとう

日和山の南麓に居住していた数軒の家は、道路が瓦礫で通れなくなり孤立状態でした。3月26日に自衛隊の活動で道路が開通し、最初のボランティアさんが野菜などの生鮮食料を届けてくれました。その後、鎌倉の建設組合のメンバーに泥かきや片づけ方をさせていただきました。絵は宇都宮から大型バス1台来てくれたボランティアさんの泥かきの様子です。全国から石巻に来てくれたボランティアさんは、最初の2年間で延べ25万人といわれています。

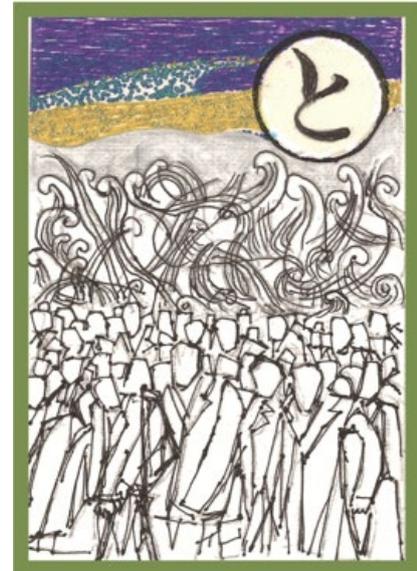
⑪ ヘリコプター 空から助けがやってきた

ヘリコプターで空から救助された人は少なくありません。北上川河口近くにあった石巻市立病院の患者さん達は3月13日～14日の2日間にわたって空から救助されました。全国各地の災害ヘリが石巻に集まったようです。門脇2丁目の阿部さん2人は震災から9日後に瓦礫の中からヘリコプターで救助されました。夕暮れ時で、我々住民はそれを眺めていました。自衛隊や海上保安庁の皆様には感謝の念でいっぱいでした。



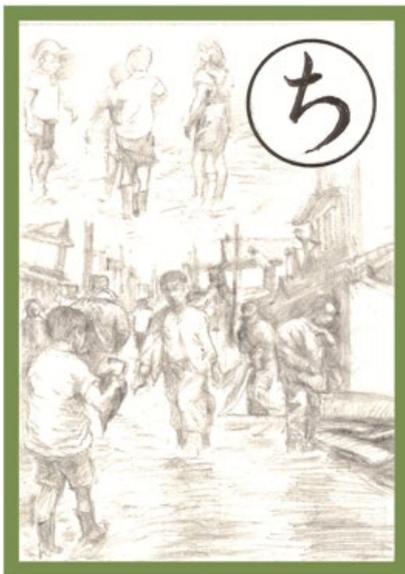
と どうとう来たか 大津波 未来永劫忘れるな

当時、宮城県沖地震が30年以内に発生する確率は99パーセントといわれていました。昭和53年の宮城県沖地震から33年目、チリ地震津波から51年目でした。3.11の津波は石巻の河口部での高さは4m程、日和山裾の門脇地区では6m程と推測されます。地形によって若干異なるようです。津波は第1波から7波まで繰り返し襲ってきました。津波が来襲した時間は満潮の前だったので、もし満潮の時であればさらに1mは高くなっていただいでしょう。



ち チリ地震津波の経験が 仇となり

昭和35年のチリ地震津波では、石巻地方での被害は甚大ではありませんでした。石巻で亡くなったのは転覆した漁船に閉じ込められた1人だけで、家も流されることがなく2階にいれば大丈夫でした。北上川の底が見えて川に降りて魚を取る人もいました。この経験が仇となって3.11では避難する人が少なかったのです。また、2010年2月28日にチリで大地震があり、石巻でも津波警報が出ました。この時も、北上川の水は若干引きましたが津波高さは約1mでした。



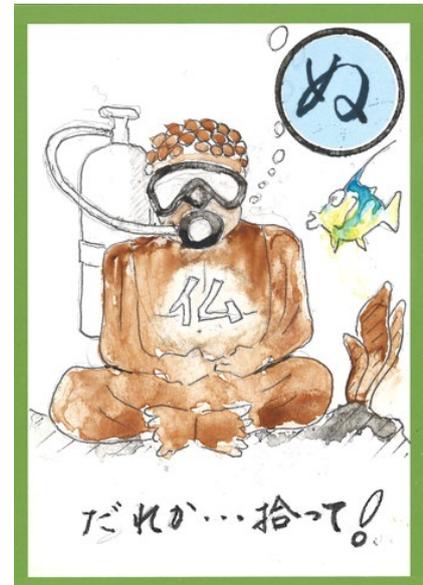
り リュックには 防災グッズを用意して

3.11の時は、避難するときに持ち出し用の防災グッズをリュックに詰めて避難した人は少なかったようです。町内会によっては防災ヘルメットも支給されていましたが、被って逃げる余裕はありませんでした。持ち出し用防災グッズで最低限必要なものは、水、食料、照明器具、衣類、衛生用品、現金などです。あらかじめリュックに詰めておくことが大事です。他にも自宅避難用や、持ち歩き用（小型電灯）を用意しておくで安心です。



ぬ 濡れぶつつあん どこへ行ったの 海の中

ひばり野海岸近くに鎮座していた濡れ仏は、津波で流されて行方不明です。元禄時代に鑄造された釈迦如来像で地元の方の信仰を集めていました。像の中は空洞で軽く丸みを帯びていたので転げて丸い銅の塊になったかもしれません。称法寺の釣鐘も流がされて北上川に落ちました。釣鐘はかなりの重さがありましたが波の力にはかないませんでした。濡れ仏も称法寺の釣鐘も、海に流されて太平洋の底に沈んでいるのでしょうか。



る ルート決め 避難道路を確認す



いざという時に備えて、避難ルートを決めておくことが大切です。予期せぬこともあるので、複数の避難路を決めておきましょう。門脇地区は幸い日和山が背後にあるので安心ですが、大雨の時は山崩れの危険があります。最悪は真冬の吹雪の時の災害で、その時の覚悟を持っていることが大切です。臨機応変に対応しましょう。日和山の道路は津波警報が出るたびに渋滞します。この問題の解決は難しいですが、徒歩で逃げるのが原則です。

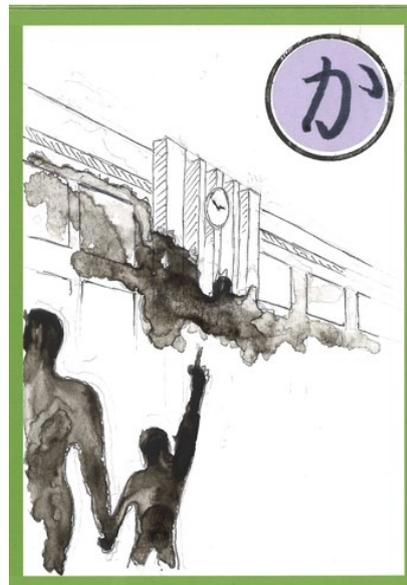
わ わが町は 区画整理で空き地だらけ

この地区は、新門脇地区として区画整理事業が行われました。工期は2014年8月から2018年8月まで震災から7年もかかりました。我慢できずに他所の土地に再建した人も多くいます。元の土地を処分できず、毎年空地に固定資産税を払うジレンマ。新門脇の面積は23.7ha 事業費は約91億円でした。区画は250で人口は1000人規模の計画でした。大半の区画は空地で草が茂っています。夏はクズの蔓が大繁殖し道路にはみ出しています。



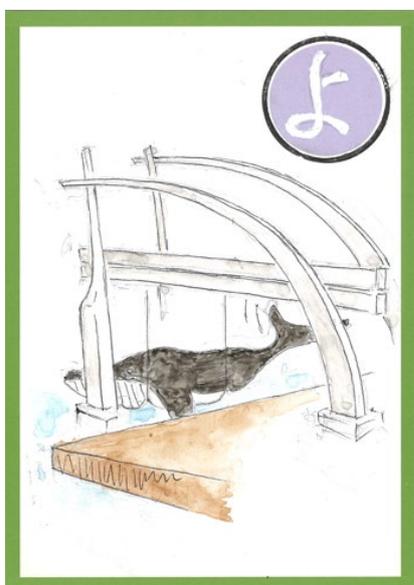
か 門小は 津波の教訓 子や孫へ

石巻の震災遺構になった門小は、津波の教訓を子や孫へ伝えます。昭和 35 年に完成した鉄筋コンクリート 3 階建ての校舎は、地震、津波、火災の複合災害を受けました。しばらくは、校舎正面にあった時計の針が被災時の時間を指していたのですが、錆びて落下してしまいました。もともと校舎の幅は 107 m ありましたが、左右 2 教室が解体されて 44m 短くなりました。卒業生にとっては自分が入っていた教室がなくなったことはショックです。



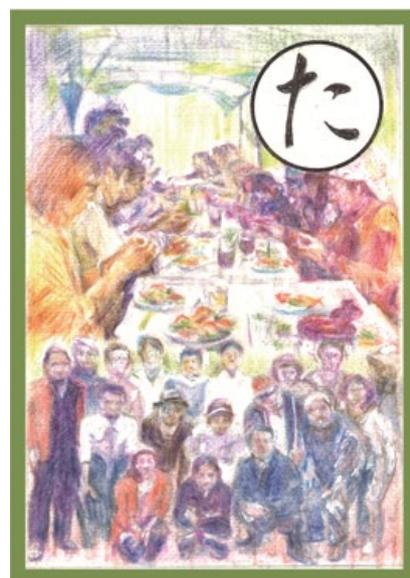
よ ヨットハーバー 河口にできた防災マリーナ

震災前、北上川に係留していたレジャーボートは津波のために市街地に流れ込み、被害を及ぼしたという事で川には係留できなくなりました。以前は、川に係留しているヨット群はクリスマスにはマストの先までイルミネーションで飾られ冬の風物詩となっていました。レジャーボートは河口の防災マリーナに集約され、川には連絡船のみになりました。北上川の歴史が始まって以来、川に船がなかったことは一度もありません。船がない水辺は景観上も寂しいものです。



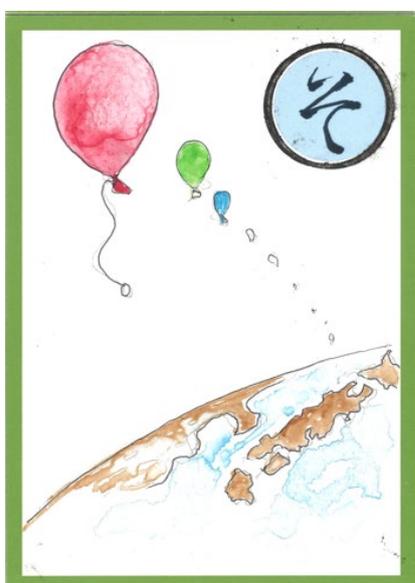
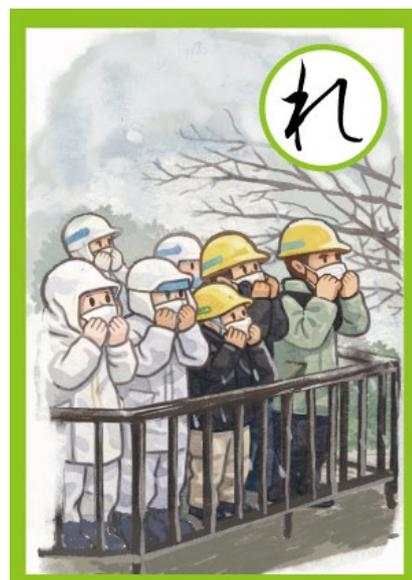
た 楽しい昼食会

楽しい昼食会（タノチュー）は、2011年5月29日に初めて当地でボランティア活動として行われました。東京在住の大山様の呼びかけで渋谷レストラン「寺崎」のメンバーがイタリア料理をごちそうしてくれたのです。震災後間もない瓦礫が残る中での本格的なイタリア料理にみな感激しました。その後、毎年春と秋に都合10回にわたりボランティア活動として住民のために尽くしてくれました。マジックや琴の演奏もありました。



れ 列組んで日和山 ニチロの人の白い服

河口にあったニチロ工場を、高さ4.5mの津波が襲いました。会社では車で避難した4人と出勤途中の4人の計8名が犠牲になりました。工場も壊滅的な打撃を受けました。ニチロの従業員は白い作業着と白い長靴を履いて集団で日和山に避難する様子がテレビニュースになりました。震災1週間後には従業員が集まり、がれきの撤去を始めて5か月後に一部再稼働することができました。2017年に内陸の新工場に移転しています。

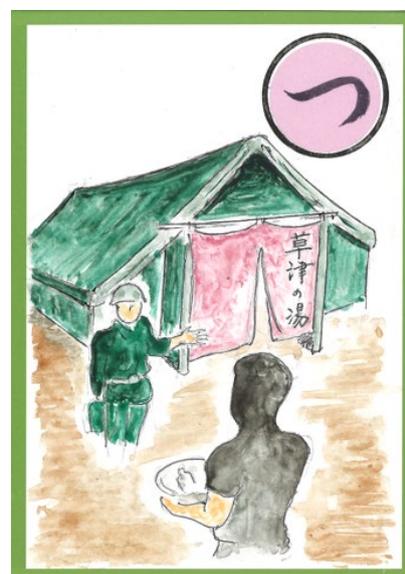


そ 空を舞う 3.11 慰霊の風船

3.11慰霊祭では「がんばろう石巻」の看板前で、毎年盛大な慰霊祭が行われています。午後2時46分の黙祷の後にたくさんの風船が放たれ、風に乗って空を舞います。色とりどりの風船はあたかも魂が空に上るようです。最近は白い鳩型の風船も飛ばしています。門協会場でも何度か風船を提供して頂きました。慰霊のためや、平和を祈るために風船を飛ばす習慣は、近年になってからです。ゴム風船は天然ゴムの樹液からつくられているので自然に分解されるので公害にはなりません。

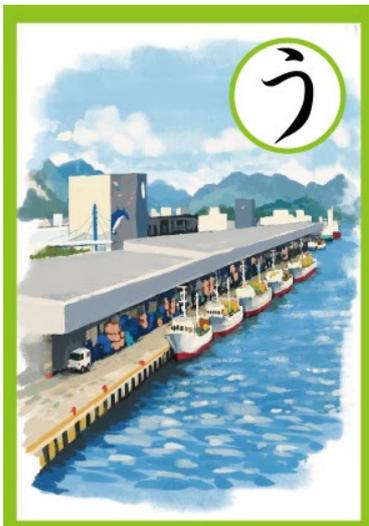
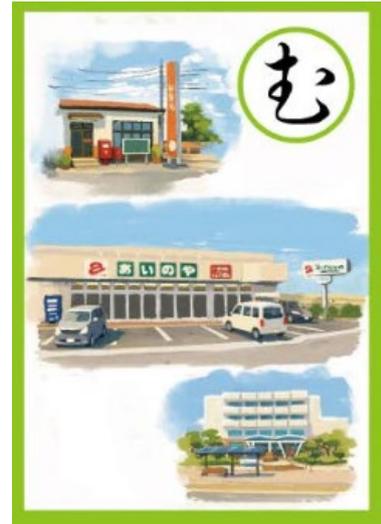
つ つつじ園跡 自衛隊のお風呂で生き返る

自衛隊の仮設浴場が4月3日に日和山のつつじ園跡に開設されたので、住民は山を上って風呂に通いました。最初は小型船にブルーシートを張って湯を入れたものでした。福島の部隊が担当してその後、山形の部隊が担当し丸いビニールの浴槽になりました。シャワーもあり、名湯の暖簾もさがって自衛隊隊員によるマッサージのサービスもあったのです。温泉からタンクでお湯も持ってきて浴槽に入れてくれたこともありました。



む 昔あったね スーパー、病院、郵便局

震災前の門脇は、スーパー「あいのや」がありました。コンビニもセブンイレブンとファミリーマート、南浜町にはココストアがありました。病院は石巻市立病院、佐藤内科医院、佐藤内科クリニックがあったのです。郵便局と銀行は石巻信用金庫があり、ガソリンスタンドは2軒、電気屋さん、寿司屋さん、食堂、魚屋さん、薬局、本屋さん、自動車整備工場、一番大きな工場は「マルハニチロ」でした。この街で何でもそろったあの頃の華やかさはもう戻らないのでしょうか。



う 魚市場 震災を経て 世界一の長さ

石巻魚市場が現在の場所に移転したのは、昭和49年でした。それ以前は北上川の左岸に、昭和4年魚市場が開設され、昭和10年には門脇側に第2魚市場が開設されました。新しい魚市場の背後には水産物の加工団地ができました。震災前の魚市場は長さ654mで東洋一といわれていました。震災後の2015年に完成した魚市場は長さ876mで、2021年に最も長い魚市場としてギネス世界記録に認定されました。

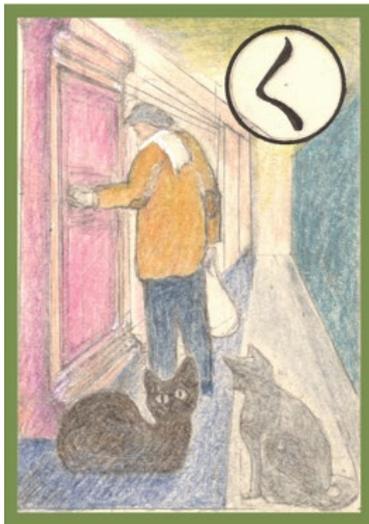
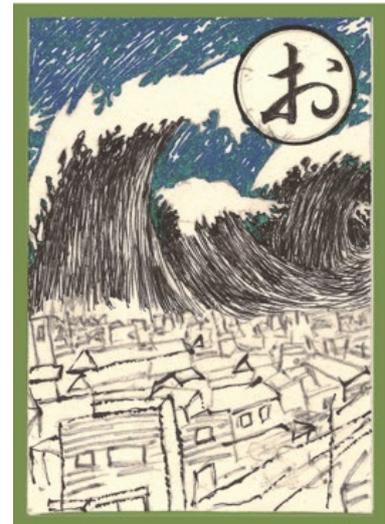
の 上れ上れ一段でも高く 日和山への避難階段

門脇の日和山裾では、津波は約6メートルの高さまで押し寄せました。日和山の表参道階段までの通称「鹿島街道」の狭い道を多くの人々が走って逃げました。ある人の手記では、死に物狂いで走り何人かを追い越しましたが、階段までたどり着き後ろを振り返ったらその方達の姿は消えていたと証言しています。表参道の最初の踊り場まで津波が来ました。現在その場所に「津波襲来の地」の石碑が建てられました。日和山表参道の階段は全部で231段です。



① 大津波 想定外と皆が言う

想定外とは、事前に予測していた範囲を超える出来事のことです。3.11の大津波の後、マスコミや有識者が想定外という言葉を使っていました。一般の人も誰もこれだけ大きい津波は来ると思わなかったので想定外という言葉になったのでしょうか。しかし、歴史では貞観の津波は3.11の大津波と同規模といわれます。今回、宮古市の最大津波高さは40.5mに達しました。雄勝町21m、女川町は14.8mでした。雲雀野海岸は約4m、門脇地区で7m程です。

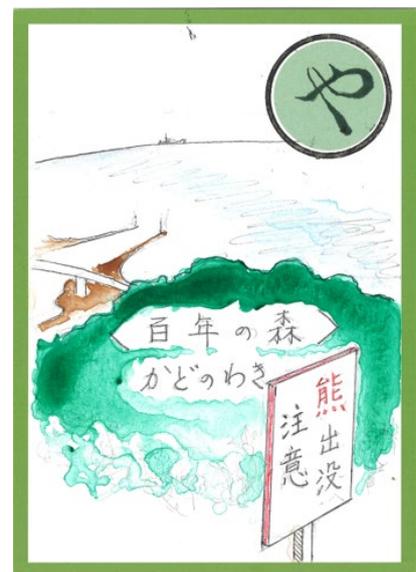


② 苦勞して 仮設に入って一安心

最初の仮設住宅は向陽町に137戸完成し4月29日から入居が始まりました。合計仮設住宅は134団地、7,153戸が建設されました。平成24年のピーク時は、7,102戸に16,788人が暮らしていました。仮設入居は抽選だったので、なかなか抽選に当たらずに入れられない人もいました。民間のみなし仮設は平成24年の最大で5,808戸、15,482人が暮らしていました。合わせると最大約3万2千人が仮設で暮らしました。

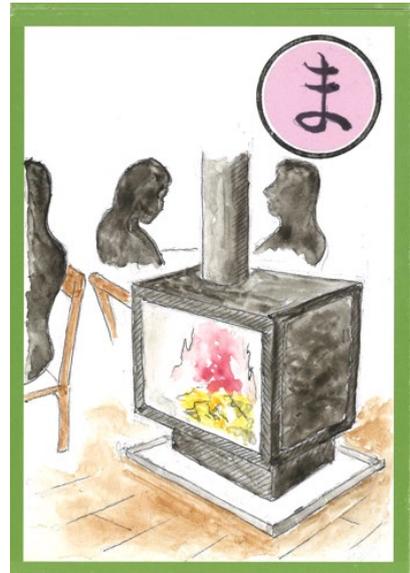
③ やがては大きな森になる 南浜の祈念公園

津波のため壊滅した南浜地区には2017年より植樹活動が始まりました。石巻市の民間団体やボランティア、ライオン(株)イオン環境財団などのご協力で南浜祈念公園にはこれまで10万本を超える樹木が植樹されました。樹種はクロマツを中心に数十種類の樹木が植えられています。以前の南浜地区は低湿地帯で大きな樹木はあまりませんでした。微高地だった善海田稲荷には大きなクロマツが象徴的に2本残っていましたが枯れてしまいました。



ま まねきショップ 皆が集まる憩いの場

まねきショップは2016年12月に門脇2丁目に食料雑貨の店として開店しました。震災以前はこの地にも福田魚屋さん、岩間商店、斎藤八百屋さん、安達商店、米倉食堂、門小前の小笠原商店、鳴瀬屋さんがありました。開店当時まねきショップは唯一の店でした。ちょっとした買い物や、訪問者へ情報と伝承を伝えました。冬は薪ストーブの前で世間話をするのが楽しみでした。2025年12月に9年間の営業を閉じました。

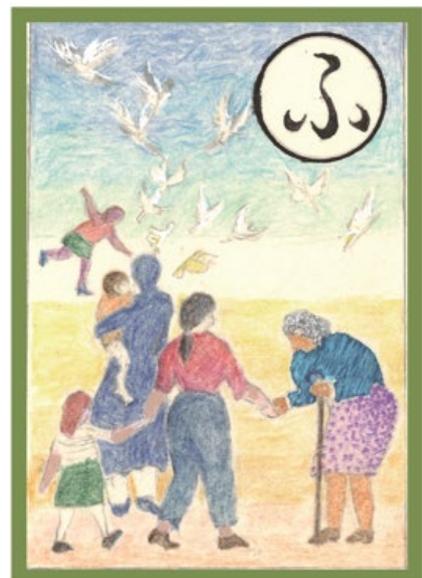


け ケータイもつながらず 安否確認 ままならず

今回の地震後、携帯電話は全く繋がらなくなりました。ドコモの携帯電話が繋がるようになったのは1週間後です。これでやっと安否確認ができるようになりました。しかし、この地区は電気が通じてなかったので携帯電話の充電には苦労しました。充電器の前に列を作って並びました。私の場合は車で走行するときに携帯電話の充電を行っていました。《つながらぬ携帯電話を握りしめ祈り続けしひと夜なりけり》遠いところにいたご主人が石巻にいる妻を気遣かって詠んだ短歌です。

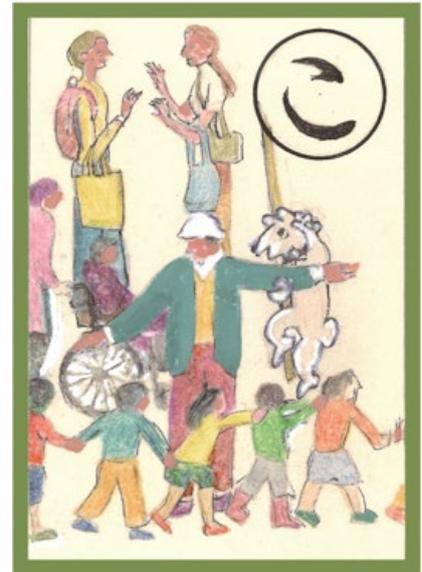
ふ 復興は 世代を超えて 受け継がれ

津波で発生した大量のがれきの撤去は半年ほどで終わり、門脇は区画整理事業が計画され2012年3月に門脇復興街づくり協議会が発足しました。旧町内会の役員がメンバーになり、50回ほどの会議を持っています。2014年8月に区画整理事業の安全祈願祭が行われ、4年後の2018年8月に新門脇区画整理事業竣工式が行われました。しかし、今でも空き地の多いこの場所では、復興は世代を超えて受け継がなければなりません。



こ 声かけて ^{みんな}皆で避難 日和山

大津波警報が発令された後、避難するにあたり近隣の方々に声かけをした方々がいたことを数多く耳にしています。しかし、「大丈夫だからおら、逃げね」という方も多くいました。これが生死の分かれ目だったのででしょうか。改めて隣近所への避難の声かけが大切という教訓を得ました。また、隣近所の方の顔を知っておくことも重要です。門脇小学校では児童が避難するのにつられて地域の住民も一緒に日和山へ避難し、助かったという方も多くいたのです。



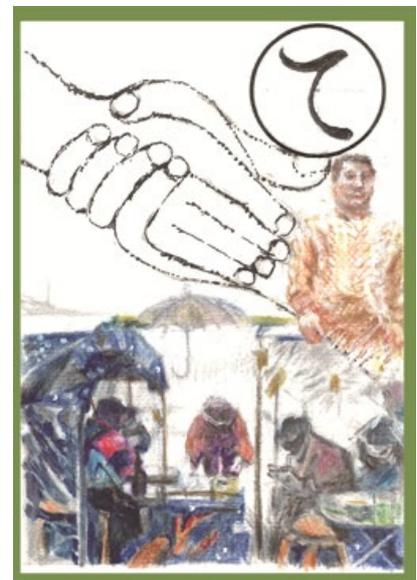
え 絵に描いた餅だったね 避難所の備蓄品

この地区の避難所は当時の石巻市立女子高でした。日和山に避難した門脇のほとんどの住民は、市女高に避難し寒かったので校舎に入りました。避難所なので毛布や水食糧が備蓄されていると思っていましたが、ほとんど何もありませんでした。私は体育館を探して防寒着を数着見つけて薄着の方に渡しました。その後、火災の延焼の恐れで門中に移動しましたがそこにも何もありませんでした。今では、その教訓を生かし備蓄品はしっかりとあります。



て 手をつなぎ 暮らしを支えた 門脇

震災後、門脇で生活していたのは7世帯ほどでした。日和山裾の門小の通りから奥に入った場所で、道路は瓦礫でふさがれ日和山から下りてくる道しかなかったのです。3日目から数軒で協力し、食料を出し合って外に竈を作り食事を共にしました。燃やすものは山ほどあったので、朝は焚火でお湯を沸かすことが日課でした。3月27日に自衛隊のおかげで奥まで道路が開通し、ボランティアさんも来るようになったのです。共同炊事は1か月で終了としました。



あ 赤々と 迫る火の手に また避難

市立女子高に避難した住民は、山のすぐ下の門小の火災で市女校も延焼の恐れがでてきました。そのため、夜中の1時頃に各自門中や石中に歩いて避難したのです。高齢者用にワゴン車2台が調達されます。その頃、道路の水たまりはすっかり凍っていました。我々は門中2年1組の教室に入り、窓から見ると門脇方面は一晩中真っ赤です。門中には2千人ほどの避難者がいて一晩中眠れぬ夜を過ごしました。津波に追われ、火災に追われた一夜でした。

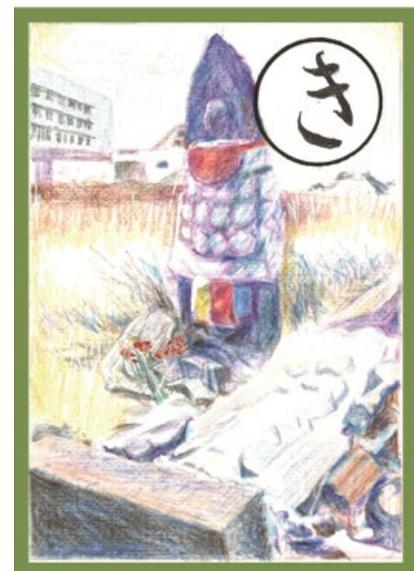


さ 冴え冴えと 光る星見て 凍えてた

津波のためすべての電源が失われ世の中は真っ暗闇になりました。避難した方々はその夜の星空が平常見る星空と違って満天の星を見ることができたのです。寒さも重なり「あの夜の星空」を語っていた人が多くいたようです。しかし、我々門中に避難した人は門脇方面の真っ赤な空を見ていました。明け方に東の方から真っ赤な空の中に明けの明星（金星）が見えたのが印象的でした。門小震災遺構に「あの夜の星空」を再現したい話は住民により却下です。

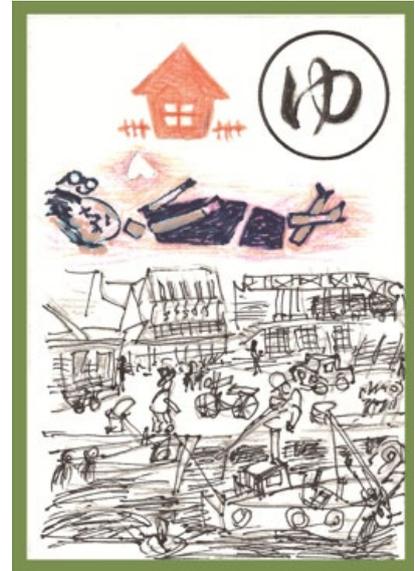
き 北向き地蔵 津波で倒れて 土台に由来

石巻保育所の向い上人堀南にあった北向き地蔵は、津波のために仰向きに倒れてしまいました。以前は、土台の前に別の石が置かれていて分かりませんでした。土台に北向き地蔵の由来が刻まれているのです。倒れたおかげで文字を見ることができました。それによると明和4年（1767）真法寺の講中75名によって建立されたのです。北向きは真法寺の方を向いていたのです。真法寺は西光寺の東隣で明治初期に廃寺になった寺です。

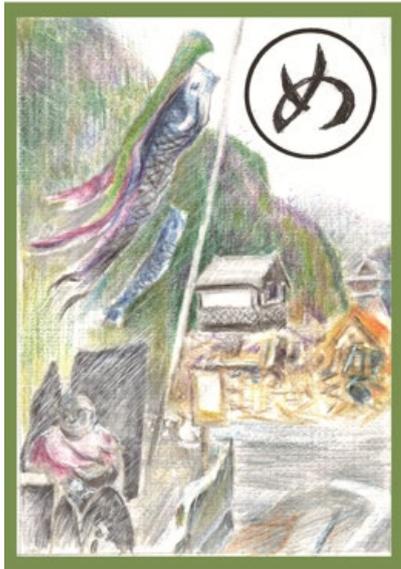


ゆ 夢に見る ふるさとのまち ^{なつ} 懐かしい我が家

津波で失われた町内の街並みや我が家を夢に見た方も多いでしょうか。津波や火災のため、跡形もなくなった家や半分残った家など様々な状態だったでしょう。新築間もない家、長く暮らした古い歴史ある家もありました。家は居場所なので、そこで過ごした日々は年をとっても忘れられないものでしょう。好きだった庭木や池の手入れなど定年後のライフワークが夢と消えました。門脇地区では修復した家は18戸であとは新築になりました。



め 目印の こいのぼり立て 道示す



瓦礫で覆われた町は何処が何処だか分からなくなりました。お地蔵さんがあった所はブロック塀で囲われており、その場所だと分かったのです。お地蔵さんはブロック塀の陰に倒れていました。この場所に山際へ入る道路があり、道路が開通してから目印に鯉のぼりを立てました。鯉のぼりは瓦礫の中から見つけたもので、最初は3匹だけ見付き竹竿に立てました。この鯉のぼりは、4月17日の朝日新聞の第1面に掲載されました。

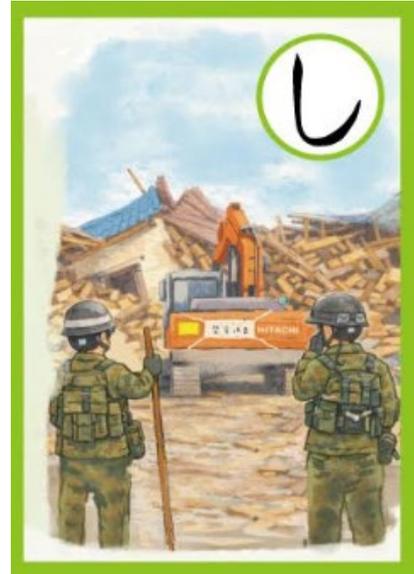
み 水汲みから 一日が始まる 避難生活

朝は水汲みから1日が始まり、焚火でお湯を沸かすのが日課でした。この年は3月でも寒い日が続いて水は冷たかったのです。朝は冷たい水で顔を洗い一日が始まります。水は日和山中腹にある、湧き水の「井戸っこ清水」から水を汲んだのです。この水は日和山の三名水で昔は鹿島御児神社もここからお水取りをしていました。ここでは、水に不自由しなかったのですが、日和山の避難所では住民では鰯山浄水場に列を作って水をもらいました。



① 自衛隊 瓦礫の中も 不明者搜索

震災後1週間以上たってから、自衛隊による瓦礫撤去と行方不明者の搜索が行われました。大量の瓦礫で重機がないと手が付けられなかったのです。重機でご遺体を傷つけない様、ご遺体が見つかりとホイッスルを鳴らし隊員が囲みビニールシートで見えないようにしてご遺体運びました。1年後の県警発表では、日和山下でのご遺体の発見は、門脇町213体、南浜町74体、南光町52体、雲雀野町7体、日和が丘5体、合計351体です。(行方不明約140人)



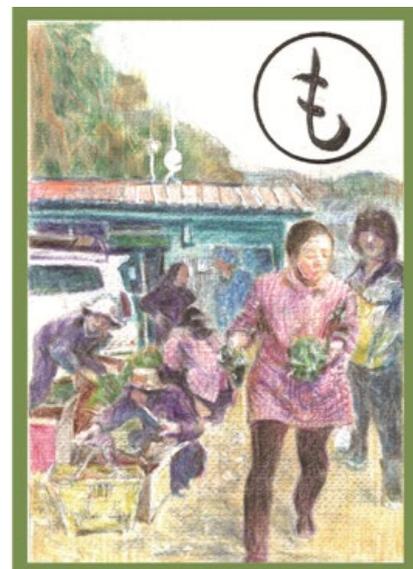
② 避難場所と 避難所とは 違います



分かりづらいのですが、避難場所と避難所は違うのです。津波避難場所は、津波により災害発生のおそれがない区域にある高台や施設です。指定避難所は、災害発生後被災者が一定期間滞在して避難生活をするための施設です。他に、津波避難ビル・タワーがあります。日和山にある避難場所は、日和山公園、羽黒山公園です。避難場所兼指定避難所は、桜坂高校、石巻高校、石巻中学、総合体育館、中央公民館、山下小学校です。

③ もらってうれしい 支援物資に 感謝の念

震災により、すべて流された住民には支援物資はなくてはならないものでした。商店もなく買い物もできずお金もない人ばかりだったのです。毎日使う歯ブラシやタオルなど必需品でした。男性はカミソリがないので髭が伸びたままの人が多くいました。水、食料品の他、大量の支援物資が集まりました。石巻市総合体育館にはそれらの支援物資が山のように積まれました。当地区でも、道路が開通した後に頂いた生鮮野菜などに感激しました。

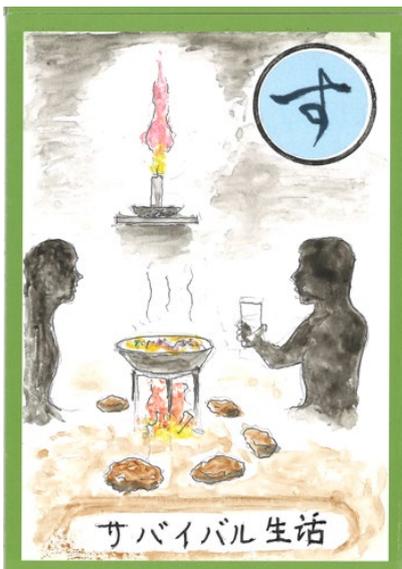


⑨ 世界中から たくさんの支援 ありがとう

東日本大震災では、世界中からご支援がありました。126ヶ国から物資の支援、人的支援、寄付金を頂いたのです。震災3日までにいち早く救助活動に入ったのは、韓国、アメリカ、シンガポール、中国、ドイツ、スイスの6ヶ国でした。韓国は震災翌日に消防防災職員がレスキューチームを作り日本へ派遣しました。寄付金では台湾が1位（200億円）で米国が2位です。石巻でも台湾の民間団体スーチャー基金から被災した各家庭に現金数万円を頂きましたね。



⑩ 水道も電気も 止まってわかる ありがたさ



普段、当たり前のように使っていた電気、水道、ガスなどは大震災によりすべて使えなくなりました。夜は電気がないのでローソク生活です。被災した家の仏壇などからローソクを調達し、板に釘を刺して燭台を作りました。夜は早く寝て夜明けとともに起きる生活でした。ガスの代わりに薪は大量の木材があったので、朝は火を起こしてお湯を沸かすことから始まりました。この地区で震災後、電気が復旧したのは5月21日、水道が復旧したのは6月9日でした。

あとがき

震災後、早15年《石巻カルタ》を見てわが町も《かどのわきカルタ》を作らないか。「そうだ、作ろう、つくろう」ということになった。

とりあえず何種かの詠み句を作ることになり、有志8名の中からベストの句を選んだ。ところが震災がらみの中身が多いため、震災カルタと今昔カルタの2種を作ることになった。

問題はそれからだ、いったい誰が絵をかくのだ。しかも絵にできないような句が多すぎる。とりあえず3名で手分けして、何とか3.11に間に合わせた。

今昔カルタは、後世に地元の歴史文化を伝え、特に震災カルタは絵によって津波の教訓を残すことができる。

【画】	水彩画	なべの「酒楽」	かどのわき住民
	色鉛筆画	あべの「長命」	かどのわき住民
	パソコン画	じんの「北斎」	伝承施設 MEET 門脇
【筆】	読み札	「月夜のウサギ」	かどのわき住民
【文】	かどのわき歴史発掘隊「隊長」		かどのわき住民代表

制 作 かどのわき町内会・3.11 メモリアルネットワーク 2026年

製作：かどのわき町内会

協力：公益社団法人 3.11 メモリアルネットワーク